

C23c 『大越史記全書』に見られる月食記事について

岡崎 彰

『大越史記全書』は越南王朝の黎朝によって編纂された編年体の史書であり、太古から1675年までを扱っている。また、『大越史記續編』は、『大越史記全書』を補う内容の史書であり、黎朝の残りの期間(1676~1789年)を記している。この史書には、種々の天文現象の記事が含まれており、このうち、月食記事については、Ho Peng-Yoke(1964)が『大越史記全書』から34件の記事をリストアップし、最近では、田野倉・岡崎(2011)が校合本『大越史記全書』(『大越史記續編』も含む)から52件の月食記事を収集している。

しかし、これらの月食記事リストは若干数の記事が欠落しており、また、個々の記事の詳しい吟味は行われていなかった。本発表では、『大越史記續編』を含む『大越史記全書』のすべての月食記事を改めて提示し、個々の記事について日本、朝鮮、中国の月食記事やシミュレーションの結果を参照しながら考察を行った。

その結果、以下のことがわかった。(1)『大越史記全書』(『大越史記續編』を含む)の月食記事の総数は55件である。(2)「望」を伴う「月[日]食」、「日[月]食」、「日食」の記事は、そのほとんどが月食である。(3)記事のとおり現地から月食が見られた割合は約8割である。(4)月食がベトナム独自で推算予測されていたことを示す内容の記事がいくつかあった。(5)夜半後に起きた月食の記事13件について記載の月日を調べた結果、6件が夕方と同じ月日、7件が翌日の月日が使われていた。